

クラスはよみがえる

野田俊作

小学校2年生の男の子

授業中に、前の子どもにいたずらをしたり、隣の子どもとおしゃべりしたりする。

従来の対応



1. 「いまは授業中なんだから、静かにしなさい」と、穏やかにいう。
2. それでも子どもがいたずらや私語を続けると、「やめろって言ってるでしょ」と叱る。

小学校5年生の男の子



いつも宿題を忘れてくる。目に余るので叱ると、ふてくされた顔で黙り込んでしまう。その後も宿題をしてこない。

従来への対応

1. もっと厳しく叱る。
2. 罰に、放課後に残して宿題をさせる。

小学校6年生の男の子

友だちと喧嘩して、ちょっとした怪我をさせてしまった。

従来への対応



1. 原因を聞きただす。
2. 怪我をさせた方をきびしく叱る。

小学校2年生の男の子

授業中に立って騒ぐ。



従来の対応

1. 「ちゃんとお座りなさい」と注意する。
2. それでも聞かないと、「ちゃんと座りなさい！」と厳しく叱る。

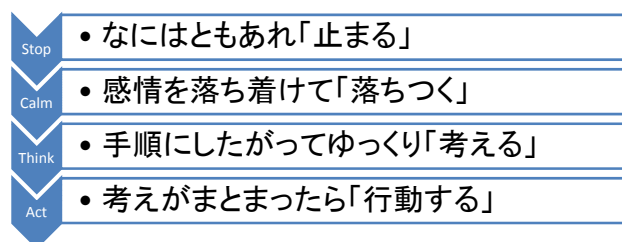
小学校2年生の男の子

授業中に、前の子どもにいたずらをしたり、隣の子どもとおしゃべりしたりする。

従来の対応



1. 「いまは授業中なんだから、静かにしなさい」と、穏やかにいう。
2. それでも子どもがいたずらや私語を続けると、「やめろって言ってるでしょ」と叱る。



子どもはなにを求めているのか？

いつだってそうですが「所属」することです。

この場合は、どういう方法で所属したいのか？

先生と特別な関係をもつことで、友だちとつながる。

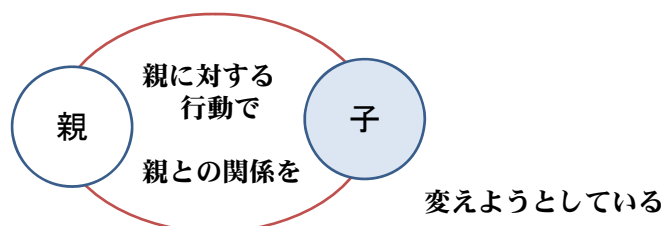
もっといい方法で友だちとつながってもらえないか？

「あなたは朗読が上手なので、ここを読んでもくれますか？」

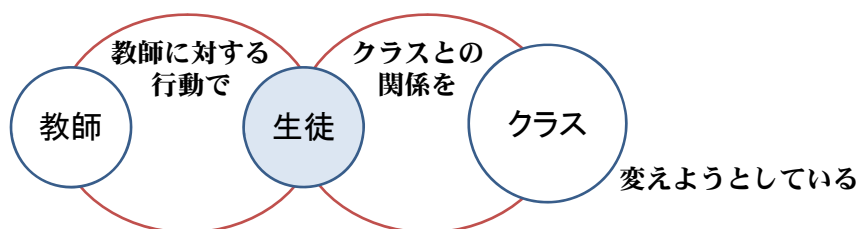
子どもが適切に行動してくれたらどうするか？

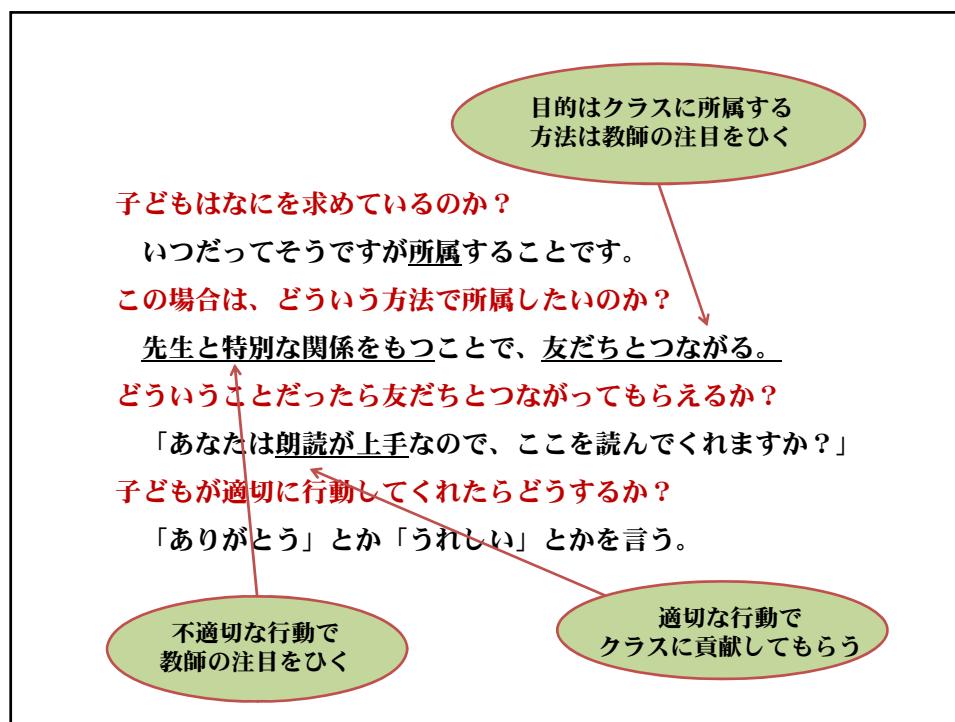
「ありがとう」とか「うれしい」とかを言う。

家庭育児の場合は親子の関係だけ



学校教育の場合は教師との関係とクラスとの関係





小学校5年生の男の子



いつも宿題を忘れてくる。目に余るので叱ると、ふてくされた顔で黙り込んでしまう。その後も宿題をしてこない。

従来の対応

1. もっと厳しく叱る。
2. 罰に、放課後に残して宿題をさせる。

繰り返し教えても改まらない不適切な行動は
繰り返し教えるから改まらないのかもしれない

子どもはなにを求めているのか？

いつだってそうですが「所属」することです。

この場合は、どういう方法で所属したいのか？

「教師に勝つ」ことで所属したいのかもしれない。

どうしたら「勝ち負け」でない解決ができるかな？

「どうすれば宿題を忘れないですることができるでしょうか。

なにかいい考えはありますか？」

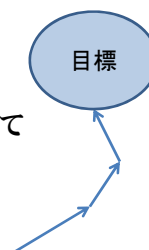
子どもが適切に行動してくれたらどうするか？

「ありがとう」とか「うれしい」とかを言う。

直線的话法から

- 普通文・命令文・閉じた質問、などを使って
- こちらが知りたいことを知ったり
- 相手に知らせたいことを知らせる

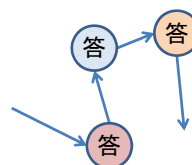
「毎日帰ったらすぐに宿題をなさい」

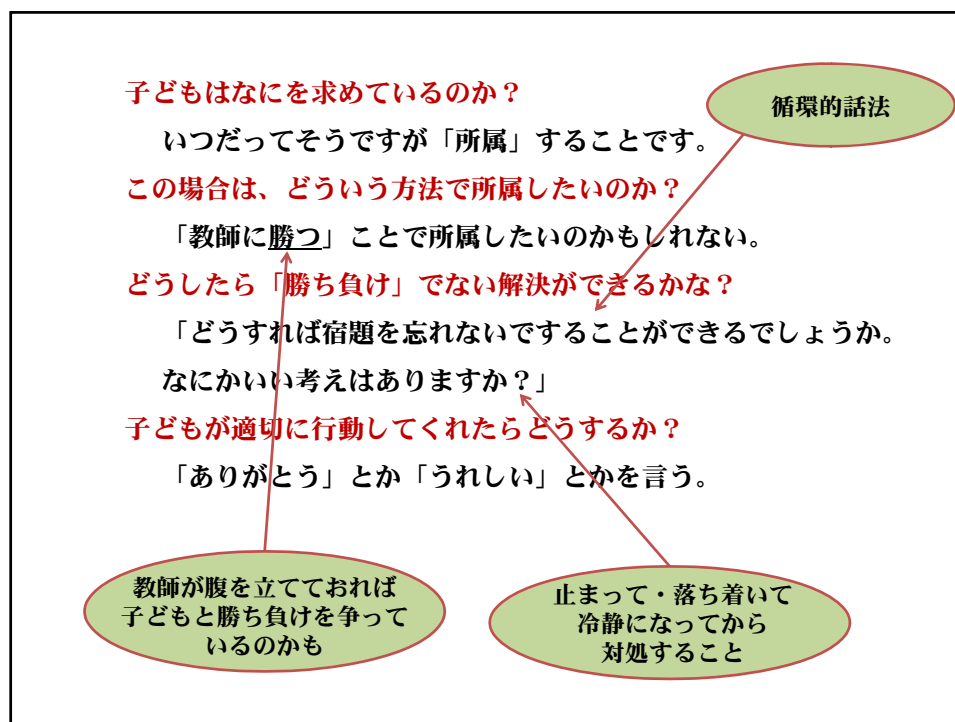


循環的话法へ

- おもに開いた質問を使って
- 相手に考えてもらう

「これまで、宿題を忘れないために、どんな工夫をしましたか？」
「これから、宿題を忘れないために、どんな工夫をしますか？」





小学校6年生の男の子

友だちと喧嘩して、ちょっとした怪我をさせてしまった。

従来への対応

1. 原因を聞いたです。
2. 怪我をさせた方をきびしく叱る。



罰することで子どもが新しいことを学ぶことはない
ただ、萎縮して、積極的に行動しなくなるだけだ

子どもはなにを求めているのか？

いつだってそうですが「所属」することです。

この場合は、どういう方法で所属したいのか？

共同で問題を解決することで所属したいのかな。

どうしたら「共同の課題」にできるかな？

「どうすればいいと思う？」と尋ねてみる。

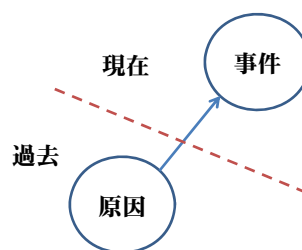
子どもが適切に行動してくれたらどうするか？

「ありがとう」とか「うれしい」とかを言う。

原因志向から

- 原因は何か
- 原因を取り除けば解決する

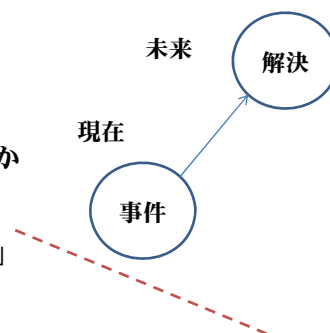
「いったい、誰が何をしたの？」



解決志向へ

- 解決像はなにか
- 解決のためにみんなは何ができるか
- 原因と関係なく解決できる

「あなたには、何ができるかな？」



そのうえで、おのおのが
できることを考える

子どもはなにを求めているのか？
いつだってそうですが「所属」することです。

この場合は、どういう方法で所属したいのか？
共同で問題を解決することで所属したいのかな。

どうしたら「共同の課題」にできるかな？
「どうすればいいと思う？」と尋ねてみる。

子どもが適切に行動してくれたらどうするか？
「ありがとう」とか「うれしい」とかを言う。

誰か一人の問題ではなく
みんなの問題だと考える

小学校2年生の男の子

授業中に立って騒ぐ。



従来の対応

1. 「ちゃんとお座りなさい」と注意する。
2. それでも聞かないと、「ちゃんと座りなさい！」と厳しく叱る。

教師が問題解決しなければならないわけではない
クラスにまかせる方がいい解決があることもある

子どもはなにを求めているのか？

いつだってそうですが「所属」することです。

この場合は、どういう方法で所属したいのか？

みんなと違うことで所属しようと考えているのかも。

どうしたらみんなと同じように所属できるかな？

クラス会議をして、どうすれば彼が座って授業を受けられるか、そのためにみんなはどんな援助ができるかを話し合う。

子どもが適切に行動してくれたらどうするか？

「ありがとう」とか「うれしい」とかを言う。

話し合う

権威主義：決める人が決まっている

放任主義：だれも決める人がいない

民主主義：みんなで話し合って決める

子どもに参加してもらう

教師が判断して子どもが従うという方針をやめる。

「語りかけ」の教育から「問いかけ」の教育へ

「どう言うか」ではなくて「どう尋ねるか」

子どもを信頼する

子どもが自力で解決できることを信じる。

子どもが協力する

何をみんなで手伝うか、何は一人でしてもらうかを話し合う。

目標を一致させる

共通の目標に向かって分業する。

「私にできることは？」
と、たえず問いかける

子どもはなにを求めているのか？
いつだってそうですが「所属」することです。
この場合は、どういう方法で所属したいのか？
みんなと違うことで所属しようと考えているのかも。
どうしたらみんなと同じように所属できるかな？
クラス会議をして、どうすれば彼が座って授業を受けられるか、そのためにみんなはどんな援助ができるかを話し合う。
子どもが適切に行動してくれたらどうするか？
「ありがとう」とか「うれしい」とかを言う。

誰か一人の問題ではなく
みんなの問題だと考える

ここでちょっと休憩



教育の目標

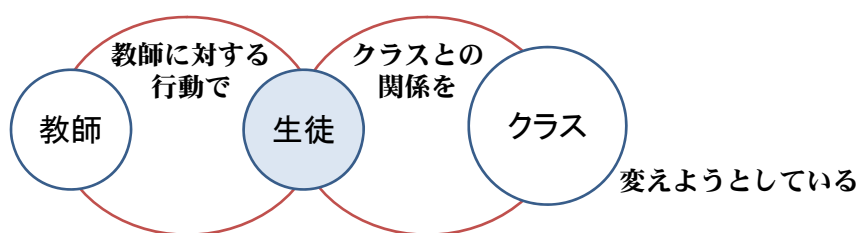
共同体に所属できるようになること
 家族・友人・学校・社会・国・人類

そのために

人々は仲間だ
私は能力がある

と子どもが思えるように教育をすること。

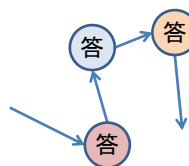
教師との関係とクラスとの関係



- 問題行動をする子どもはクラスに所属することに失敗している
- 教師がその子を直接に援助すると、かえって問題行動が続くことが多い
- その子の力をクラスのために使えないか工夫する
- クラスに働きかけて、その子が所属できるよう工夫してもらう

循環的話し方

- おもに開いた質問を使って
- 相手に考えてもらう



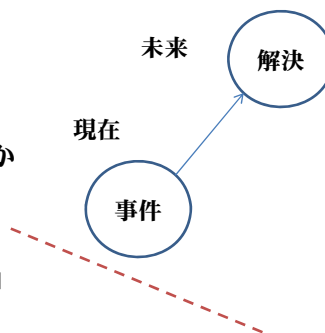
「これまで、宿題を忘れないために、どんな工夫をしましたか？」
 「これから、宿題を忘れないために、どんな工夫をしますか？」

- 「言葉がけ」ではなくて「問いかけ」
- 教示する（教え込む）のではなくて、教育する（気がついてもらう）
- 子どもが自分で解答を考えて、ことばにするのを援助する
- 考えてみると、教師が答を知っているわけでもないことが多い
- クラス全体に対して問いかけてみるのもいいことかもしれない

解決志向へ

- 解決像はなにか
- 解決のためにみんなは何ができるか
- 原因と関係なく解決できる

「あなたには、何ができるかな？」



- 原因がわかっていても解決できるとは限らない
- 解決像がはっきりイメージされている必要がある
- いちどに解決にたどりつけるわけではないかもしれない
- スモールステップの工夫が必要になるかもしれない
- みんなが、「私にはなにができるか」と考えること

話し合う

権威主義：決める人が決まっている
放任主義：だれも決める人がいない
民主主義：みんなで話し合って決める

- 日本国民は、いまも民主主義を学んでいる途中だ
- どうすれば「民主的」であるのかを、よく考えなければならない
- 多数決が民主主義ではない
- よく話し合い、みんなが納得する結論を出せれば、いちばんいい
- 子どもたちが「民主主義の国に生まれてよかった」と思ってほしい
- 民主主義の国の国民としてどうふるまえばいいのかを学ぶのが学校だ

ありがとうございました